

三河の昆虫

No. 35

1988年1月

〒444 岡崎市明大寺町
西郷中 生理学研究所
技術課内
三河昆虫研究会 発行

MIKAWA NO KONTYU

Published by

The Mikawa Insects Association

豊川市財賀寺のハムシ相

山崎 隆弘

I. はじめに

豊川市財賀寺は三河本宮山(789m)の西南に位置し、観音山(411m)を中心とする一帯であるが、この昆虫類については部分的に明らかになってきた。そのなかでヒメハルゼミ、ウシカメムシ、アミダテントウなど貴重な種の確認もされ、既にカミキリムシ科、半翅目などについては報告がなされている。

今回、当地域から得られたハムシ科資料についてここに報告したいと思う。この目録は筆者の他に大平仁夫博士、浅岡孝知、照井正康の諸氏の採集品も加えさせて頂き作成したものである。世話になった方々に厚くお礼申し上げる。

II. 豊川市財賀寺のハムシ科目録

Criocerinae クビボソハムシ亜科

(6種)

この亜科中最も多産しているのはヤマイモハムシである。キベリクビボソハムシは既に記録されているが、三河地方では稀な種。ホソクビナガハムシ、アカクビナガハムシは少ない。

1. *Liliocerus parvicollis* (BALY)

ホソクビナガハムシ

7-VII. '87. (1) 浅岡.

2. *Liliocerus rugata* BALY

キイロクビナガハムシ

3-V. '79. (2) 照井. 6-VI. '82. (1) 浅岡.

3. *Liliocerus subpolita* (MOTSCHULSKY)

アカクビナガハムシ

28-VI. '87. (1) 大平.

4. *Lema cirsicola* CHÛJÔ

(図-M)

ルリクビボソハムシ

8-VI. '77. (1) 山崎.

5. *Lema adamsii* BALY

(図-N)

キベリクビボソハムシ

文献記録 (8-V. '77)

6. *Lema honorata* BALY

(図-O)

ヤマイモハムシ

10-V. '81. (2) 浅岡. 17-V. '78. (2) 山崎.

23-V. '87. (2) 浅岡. 26-V. '78. (6) 山崎.

6-VI. '82. (2) 浅岡. 7-VI. '87. (2) 大平. 8-

VI. '77. (5) 山崎. 22-VI. '86. (2) 大平.

28-VI. '81. (2) 浅岡. 28-VI. '87. (2) 大平.

Cryptocephalinae ツツハムシ亜科

(2種)

ここではわずか2種が判名したのみ。キアシルリツツハムシは山頂附近に産する。本種は山地性だが遠望峰山~宮路山にも分布する。

7. *Cryptocephalus fortunatus* BALY

キアシルリツツハムシ

17-V. '78. (5) 山崎. 26-V. '78. (11) 山崎.

8. *Cryptocephalus signaticeps* BALY

(図-E) クロボシツツハムシ

10-V. '81. (1) 浅岡. 17-V. '78. (1) 山崎.

Chalamisinae コブハムシ亜科

(2種)

2種とも個体数もおおくふつうに産する。

9. *Chalamisus spilotus* (BALY)

ムシクソハムシ

5-V. '82. (3) 浅岡. 10-V. '81. (1) 山崎.

10-V. '81. (1) 浅岡.

10. *Chalamisus lewisii* BALY

(図-I) ツバキコブハムシ

7-VI. '87. (2) 大平. 20-VI. '87. (2) 大平.

7-VII. '87. (2) 浅岡. 17-X. '82. (1) 浅岡.

Lamprosomatinae ツヤハムシ亜科

(1種)

ドウガネツヤハムシの1種のみ分布するが、今回の調査で f. *yuasai* (青色型) を山頂付近から採集することができた。

11. *Oomorphoides cupreatus* (BALY)

ドウガネツヤハムシ

3-V. '79. (4) 照井. 10-V. '81. (2) 浅岡.

17-V. '78. (1) 山崎. 26-V. '78. (5) 山崎.

8-VI. '86. (2) 大平.

Eumolpinae サルハムシ亜科

(8種)

確認された種の大部分が暖地性の種であり、個体数も豊富である。このことからこの一帯がシイを主体とする暖帯林がよく保全されていることもうかがえる。

12. *Basilepta hirticollis* (BALY)

ムナゲクロサルハムシ

10-V. '78. (3) 山崎. 22-VI. '86. (1) 大平.

28-VI. '87. (2) 大平. 7-VII. '87. (3) 浅岡.

13. *Hyperaxis fasciata* (BALY)

クロオビカサハラハムシ

10-IV. '77. (4) 山崎. 17-V. '78. (2) 山崎.

4-X. '87. (2) 山崎.

14. *Demotina fasciculata* BALY

(図-Q) マダラアラゲサルハムシ

10-IV. '77. (9) 山崎. 17-IV. '77. (6) 山崎.

23-IV. '79. (1) 山崎. 15-V. '77. (2) 山崎.

17-V. '78. (1) 山崎. 27-IX. '78. (1) 山崎.

4-X. '87. (3) 山崎.

15. *Demotina decorata* BALY

(図-K) チビカサハラハムシ

10-IV. '77. (25) 山崎. 17-IV. '77. (2) 山崎.

4-X. '87. (4) 山崎.

16. *Demotina modesta* BALY

(図-L) カサハラハムシ

4-X. '87. (1) 山崎.

17. *Acrothinium gaschkevitichii* (MOTSCHULSKY)

(図-G) アカガネサルハムシ

3-V. '79. (2) 照井. 10-V. '81. (1) 浅岡.

17-V. '78. (1) 山崎. 26-V. '78. (5) 山崎.

6-VI. '82. (1) 浅岡.

18. *Lypesthes ater* (MOTSCHULSKY)

(図-H) リンゴコフキサルハムシ

10-VI. '78. (1) 山崎.

19. *Lypesthes* sp.

ケブスカサルハムシの一種

10-V. '81. (3) 浅岡.

Chrysomelinae ハムシ亜科

(2種)

ふつう種のヨモギハムシ, コガタルリハムシなど若干種が未確認である。また三河本宮山に多産するルリハムシもここでは得られなかった。フジハムシについては原型よりも f. *plagipennis* (クロスジ型) の方がはるかに多い。

20. *Plagiodera versicolora* (LAICHTARTING)

ヤナギルリハムシ

10-V. '81. (1) 浅岡.

21. *Gonioctena rubripennis* BALY

(図-T) フジハムシ

23-IV. '79. (1) 山崎. 3-V. '79. (2) 照井.

10-V. '87. (1) 浅岡. 23-V. '87. (1) 浅岡.

Galerucinae ヒゲナガハムシ亜科

(11種)

この亜科については特記すべき種は見当たらないが、ふつう種でもミゾハギハムシやハラグロヒメハムシなどは、この地方での記録上では少ないものといえる。イタドリハムシはふつう種だが、ここでの個体数は少ない。

22. *Pyrrhalta calmariensis* (LINNE)

ミゾハギハムシ

7-VII. '87. (2) 浅岡.

23. *Pyrrhalta semifulva* JACOBY

アカタデハムシ

10-IV. '77. (14) 山崎. 17-IV. '77. (11) 山崎.

28-IV. '80. (1) 山崎. 3-V. '79. (4) 照井.

5-V. '82. (4) 浅岡. 10-V. '81. (6) 浅岡.

6-VI. '82. (1) 浅岡. 7-VI. '87. (1) 大平.

7-VII. '87. (1) 浅岡. 17-X. '82. (1) 浅岡.

24. *Pyrrhalta esakii* KIMOTO

エグリバケブカハムシ

17-X. '82. (1) 浅岡.

25. *Paridea quadriplagiata* (BALY)

(図-R)

ヨツボシハムシ

3-V. '79. (1) 照井. 8-V. '77. (1) 山崎.

15-V. '77. (1) 山崎. 17-V. '78. (1) 山崎.

10-VI. '78. (1) 山崎. 27-IX. '78. (1) 山崎.

26. *Paridea angulicollis* (MOTSCHULSKY)

(図-J)

アトボシハムシ

28-IV. '80. (1) 山崎. 8-V. '77. (1) 山崎.

10-VI. '78. (1) 山崎.

27. *Fleutiauxia armata* (BALY)

クワハムシ

23-V. '87. (1) 浅岡.

28. *Stenoluperus cyaneus* (BALY)

ルリウスバハムシ

23-V. '87. (1) 浅岡.

29. *Calomicrus cyaneus* (JACOBY)

ハラグロヒメハムシ

17-IV. '77. (1) 山崎. 21-IV. '85. (1) 浅岡.

15-V. '77. (1) 山崎. 17-V. '78. (1) 山崎.

30. *Monolepta dichroa* HAROLD

ホタルハムシ

7-VII. '87. (2) 浅岡.

31. *Agelasa nigriceps* MOTSCHULSKY

(図-B)

キクビアオハムシ

10-IV. '77. (1) 山崎. 8-V. '77. (1) 山崎.

7-VI. '87. (1) 大平.

32. *Gallerucida bifasciata* MOTSCHULSKY

イタドリハムシ

3-V. '79. (2) 照井.

Alticinae ノミハムシ亜科

(7種)

この亜科で三河本宮山には産するが、遠望峰山~宮路山一帯では未確認となっているものにフタホシオオノミハムシがあるだけで、その他も特記すべき種もなく、当地方では極くふつうに見られるものである。また種類数も他所と比較して少ない。これは、当地域の自然環境によるものか、調査がまだ不十分といえるのか今のところ断定できない。

33. *Altica viridicyanea* (BALY)

(図-P)

コカミナリハムシ

8-V. '77. (1) 山崎.

34. *Pseudodera xanthospila* BALY

フタホシオオノミハムシ

10-V. '81. (2) 浅岡.

35. *Aphthona perminuta* BALY

ツブノミハムシ

10-IV. '77. (1) 山崎. 17-IV. '77. (8) 山崎.

36. *Aphthona strigosa* BALY

サメハダツブノミハムシ

10-IV. '77. (8) 山崎. 17-IV. '77. (1) 山崎.

28-IV. '80. (1) 山崎.

37. *Hemipyxis plagioderoides* (MOTSCHULSKY)

(図-A)

ヒゲナガルリマルノミハムシ

17-IV. '77. (1) 山崎. 15-V. '77. (7) 山崎.

17-V. '78. (2) 山崎. 26-V. '78. (1) 山崎.

8-VI. '77. (3) 山崎. 22-VI. '86. (1) 大平.

38. *Hemipyxis flavipennis* (BALY)

(図-S) キバネマルノミハムシ

17-V. '78. (1) 山崎. 26-V. '78. (1) 山崎.
10-VI. '78. (1) 山崎.39. *Nonarthra cyaneum* BALY

ルリマルノミハムシ

17-IV. '77. (2) 山崎. 23-IV. '79. (2) 山崎.
28-IV. '80. (4) 山崎. 15-V. '77. (1) 山崎.
4-X. '87. (1) 山崎.

Hispiinae トゲハムシ亜科

(1種)

カタビロハムシはふつうに産する。キベリトゲハムシについては確認できなかった。これは遠望峰山～宮路山一帯と同様である。

40. *Dactylispa subquadrata* (BALY)

(図-C) カタビロトゲハムシ

5-V. '82. (1) 浅岡. 17-V. '78. (1) 山崎.
26-V. '78. (1) 山崎. 28-VI. '87. (1) 大平.
17-X. '82. (1) 浅岡.

Cassidinae カメノコハムシ亜科

(3種)

いずれもこの地方のふつう種が分布するのみ。三河本宮山あたりで見られるルイスジंगाサハムシやカゴタカメノコハムシにも注目したが、ここでは確認できなかった。セモンジंगाサハムシの f. *cucifera* (無尾型) は9個体のうち1個体であった。41. *Cassida piperata* HOPE

ヒメカメノコハムシ

26-IV. '86. (1) 浅岡. 15-IX. '81. (1) 浅岡.

42. *Cassida versicolor* (BOHEMAN)

(図-D) セモンジंगाサハムシ

5-V. '82. (1) 浅岡. 10-V. '81. (1) 山崎.
17-V. '78. (3) 山崎. 8-VI. '86. (1) 大平.
22-VI. '86. (2) 大平.43. *Thlaspidia cribrata* (BOHEMAN)

イチモンジカメノコハムシ

3-V. '79. (1) 照井. 5-V. '82. (2) 浅岡.

6-VI. '82. (2) 浅岡. 10-V. '81. (1) 浅岡.
10-V. '81. (2) 山崎. 17-V. '78. (3) 山崎.
8-VI. '87. (1) 大平. 22-VI. '86. (2) 大平.
28-VI. '87. (1) 大平. 28-VI. '81. (2) 浅岡.
7-VII. '87. (1) 浅岡.

III. 財賀寺のハムシ相の概観

この地域から採集されたハムシ科以外の昆虫については、特筆すべき種が見出されているので、ハムシ科についても一応の期待と興味を持って調査を行った。しかし、ここから得られた資料からは2～3の気付いた点を省けば、特筆すべき種というものは見当らなかった。この財賀寺が本宮山系にありながらも、ここでは三河本宮山に産する多くの種が減少してしまっている。たとえば、ルリハムシ、ホソハムシ、カタクリハムシ、ルイスジंगाサハムシ、クロトゲハムシ等がそうである。また、ここで得られた種類数が43種と他所に比較しても少なめとなっている。これは、一方では平地のふつう種であるヨモギハムシ、コガタルリハムシ、バラルリツツハムシ、ウリハムシ等が採集されなかったためである。

いずれにしても、財賀寺に分布するハムシ類はアカクビナガハムシ、ホソクビナガハムシのようにまだ遠方峰山～宮路山一帯で採集されていないものも見られるが、全般的には低山地に産する暖地性の種で構成されており、三河本宮山のハムシ相とは大きな違いを見せる。やはり地理的には連続していても、ここの標高差が378 mあるために植物相とからめてこのようなハムシ相になるものと思われる。

以上、財賀寺のハムシ科については一応の区切りとしたが、まだ不備な点を多く残しているので、今後もさらに究明してゆきたいと思う。

IV. 参考文献(豊川市財賀寺の昆虫関係)

- 1) 山崎隆弘(1978) 三河の甲虫雑報(2) 豊川市財賀寺での採集報告, 三河の昆虫, (20): 97~80.

- 2) 竹内克豊(1981)「新録採集会」結果報告・カミキリムシ科, 三河の昆虫(28): 116~117.
- 3) 村田文彦(1981)モモグロハナカミキリを豊川市財賀寺で採集, 三河の昆虫(28): 112.
- 4) 太田佳伸(1981)アオカミキリを豊川市で採集, 三河の昆虫(29): 134.
- 5) 浅岡孝知(1984)豊川市北部(財賀町平尾町)のカミキリムシ相, 三河の昆虫(30): 142~143.
- 6) 山崎隆弘(1981)ウシカメムシ舟着山にも産す, 三河の昆虫(27): 114.
- 7) 浅岡孝知(1985)豊川市北部(平尾町・財賀町)の昆虫II 半翅目, 三河の昆虫(32): 178~182.
- 8) 大平仁夫(1985)山崎隆弘氏採集の三河地方のコメツキムシ, 三河の昆虫(32): 170~178.
- 9) 山崎隆弘(1979)カツコウメダカカミキリ豊川市で採集, 虫譜17巻2号: 31.
- 10) 山崎隆弘(1979)ムラサキヒメカネコメツキ豊川市で採集, 虫譜17巻2号: 31.
- 11) 浅岡孝知(1986)東三河におけるウシカメムシの分布, 三河の昆虫(33): 218.
- 12) 浅岡孝知(1986)豊川市財賀寺にてヒメハルゼミ産す, 三河の昆虫(33): 219.
- 13) 浅岡孝知(1986)アヤヘリハネナガウンカの分布, 三河の昆虫(33): 218.
- 14) 山崎隆弘(1978)三河地方で採集した珍しい甲虫(その3)三河の昆虫(21): 81~83.

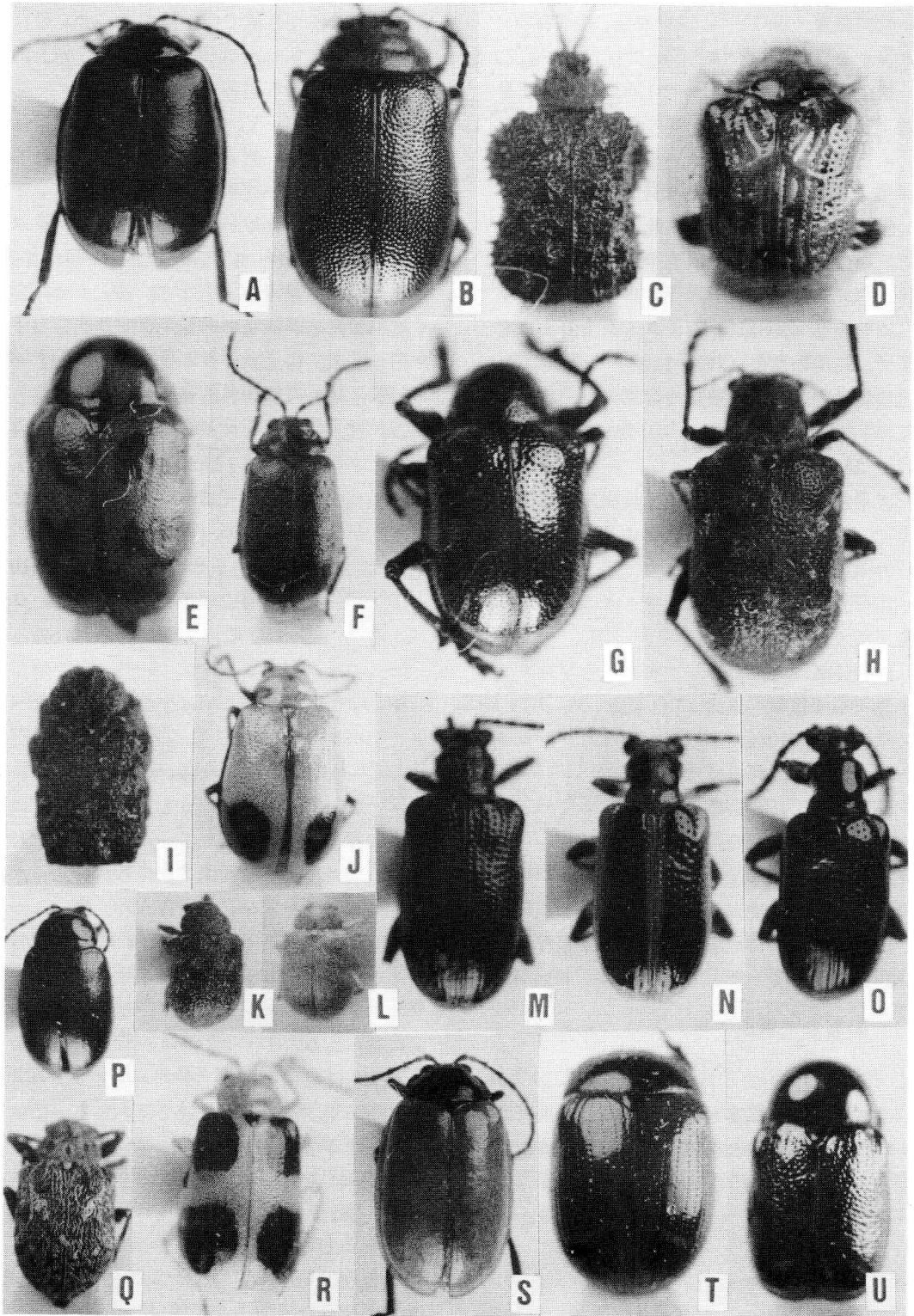
V. 財賀寺で採集されたハムシ科標本

(図版説明)

ここに図示した標本写真は採集品の一部であるが、必ずしも稀な種ではなく、財賀寺に生息する代表種ということで取りあげた。

A. ヒゲナガルリマルノミハムシ。(8-VI.

'77) 極くふつう種で個体数も多くよく目に付く。B. キクビアオハムシ(8-V.'77)山頂付近で得られるが多くない。C. カタビロトゲハムシ(17-V.'78)暖帯常緑林地帯に見られる種。ピーティングでよく採集される。D. セモンジンガサハムシ(8-VI.'77)サクラ類から得られるが多くない。E. クロボシツツハムシ(17-V.'78)ハンノキ類に普通。F. ミゾハギハムシ(7-VII.'87)本種は北海道・本州・シベリア・ヨーロッパに分布する旧北区系。G. アカガネサルハムシ(17-V.'78)金緑色の美しい種であるがふつう見られる。H. リンゴコフキサルハムシ(10-VI.'78)ここではこの1頭が得られたのみ。I. ツバキコブハムシ(28-VI.'87)ふつうに産する。J. アトボシハムシ(28-IV.'80)ふつうに産する。K. チビカサハラハムシ(10-IV.'77)観音寺周辺に多い。L. カサハラハムシ(4-X.'87)この1頭が得られたのみ。M. ルリクビボソハムシ(8-V.'77)珍しい種ではないが、ここでは少ない。N. キベリクビボソハムシ(8-V.'77)三河地方の記録としてもきわめて稀な種。O. ヤマイモハムシ(17-V.'78)いたるところでふつうに見られる。P. コカミナリハムシ(8-V.'77)ふつうの種だが標本はこれのみ。Q. マダラアラゲサルハムシ(23-IV.'79)極くふつうの種。R. ヨツボシハムシ(8-V.'77)特長ある美し種。ややふつうに産する。S. キバネマルノミハムシ(26-V.'78)極くふつうに見られる。T. フジハムシ(10-IV.'77)ふつうに産する。U. キアシルリツツハムシ(26-V.'78)山頂付近で得られる。個体数も少なくない。



財賀寺山ハムシ科標本

財賀寺のコメツキムシ

大平 仁 夫

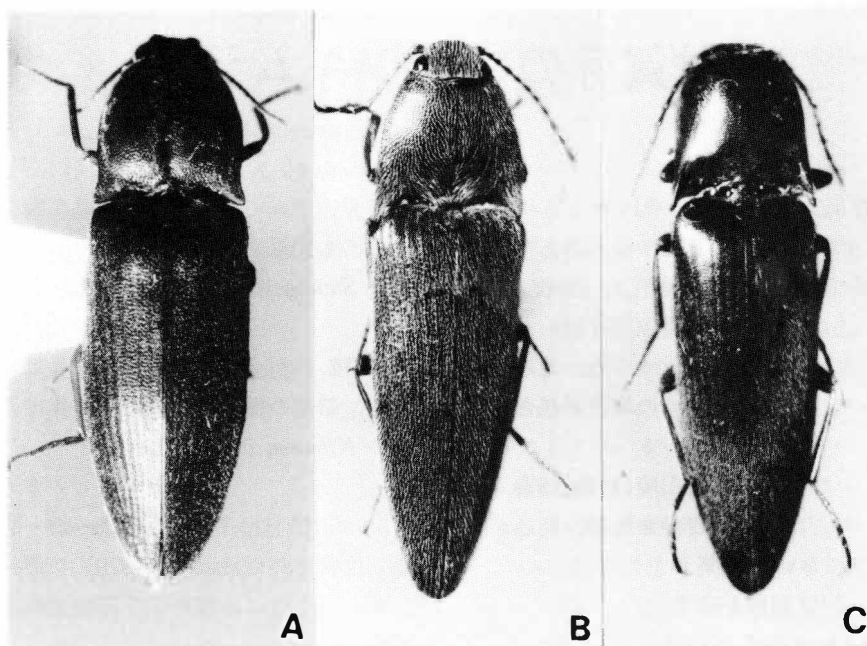
財賀寺は豊川市平尾町の北端にある古い寺で、寺の裏山には広大な照葉樹の極相林あり、三河本宮山塊の南端部にある観音山（海拔411m）の南麓にあたる。この昆虫相については山崎（1978）によって報告されてから、地域の同好者によって注目され、多くの報告が残されている。

コメツキムシ類については山崎（1978, 1979）、大平（1985）などによる報告があるが、筆者が1986～1987年において採集したものをここに報告する。（ ）は頭数を示す。

- 1) *Lacon (Alaotypus) maeklinii* (Candèze)
オオサビコメツキ (図, A)
7-VII, 87 (2)。三河地方では段戸山（裏谷）が唯一の産地であった。
- 2) *Agrypnus (Agrypnus) binodulus* (Motschulsky)
サビキコリ
7-VII, 87 (2)。寺院周辺に多い。
- 3) *Agrypnus (Sabikikorius) fuliginosus* (Candèze)
ホソサビキコリ
7-VI, 87 (1)。大平（1985）にも記録されている。
- 4) *Pectocera fortunei* Candèze
ヒゲコメツキ
22-VI, 87 (1 ♀)。大平（1985）にも記録されている。
- 5) *Yukoana carinicornis* (Lewis)
ヘリムネマメコメツキ
8-VI, 86 (2)。財賀寺では固体数が少なく、この仲間では本種しか見出されていない。
- 6) *Neopristilophus serrifer* (Candèze)
アカヒゲヒラタコメツキ
8-VI, 86 (3); 7-V, 87 (1)。三河地方では各

地で見出されている。ここでは山崎（1978）によっても記録されている。

- 7) *Stenagostus umbratilis* (Lewis)
オオツヤハダコメツキ
2-VIII, 1987 (7)。財賀寺からは最初の記録であるが、普通の種である。燈火採集で得た。
- 8) *Kibunea eximia* (Lewis)
ムラサキヒメカネコメツキ
8-VI, 86 (1); 7-VI, 87 (2); 28-VI, 87 (1)。
ここ財賀寺からは山崎（1979）に最初に記録された。ここでは本種がよく見出され、得られる場所もほぼ定まっていて興味深い。
- 9) *Hemicrepidius (Pseudathous) secessus* (Candèze)
クロツヤハダコメツキ
22-VI, 86 (5); 28-VI, 87 (4)。6月下旬頃から見出される普通種である。
- 10) *Ampedus (Pseudelater) carbunculus* (Lewis)
ヒメクロコメツキ
8-VI, 86 (2)。ここではあまり多くない。
- 11) *Ampedus hypogastricus* (Candèze)
アカハラクロコメツキ
7-VI, 87 (4); 28-VI, 87 (1)。普通種である。
- 12) *Neotrichophorus junior* (Candèze)
ヒゲナガコメツキ
28-VI, 87 (1)。燈火採集で見出された。財賀寺からは最初の記録である。
- 13) *Melanotus (Spheniscosomus) koikei* Kishii et Ohira
ヒラタクシコメツキ (図, B)
8-VI, 86 (4); 22-VI, 86 (3); 7-VI, 87 (2); 28-VI, 87 (3)。ここでは本種が多く見出され、三河地方ではこのような場所は他に存在しない。



A, オオサビコメツキ; B, ヒラタクシコメツキ; C, ヒメオオナガコメツキ

14) *Melanotus correctus* Candèze

ヒラタクシコメツキ

7-VI, 87 (1). 山林性の普通種である。

15) *Melanotus senilis* Candèze

クロクシコメツキ

22-VI, 86 (1). 農耕地周辺の雑木林に多い種である。ここでは今回が最初の記録である。

16) *Melanotus (Kensakukulus) erythropygus* Candèze

コガタノクシコメツキ

22-VI, 86 (1); 7-VI, 87 (1). 山林性の普通の種である。

17) *Elater (Nipponoelater) kometsuki* Kishii

ヒメオオナガコメツキ (図, C)

2-VIII, 87 (2). 今までオオナガコメツキとされていたものに2種混在していることがわかり、その一方のみに上記の名前がつけられた。体はやや小形で、翅端部が強く針状に突出しないことで識別できる。愛知県ではここが最初の記録である。燈火採集で得られた。

18) *Silesis musculus* Candèze

クチブトコメツキ

28-VI, 87 (1). 各地に分布しているが、財賀寺からはこれが最初の記録である。

財賀寺から20種のコメツキムシ類が記録され、この本科の概要が明らかになった。ここで特徴的なのはムラサキヒメカネコメツキやヒラタクシコメツキが多く見出されることである。今後も引続き調査をして行き、より詳しい分布相を明らかにして行きたいと思う。

財賀寺のコメツキムシ関係の文献は以下のようである。

山崎隆弘(1978)三河の甲虫雑報(2), 豊川市財賀寺での採集報告。三河の昆虫, 20: 77~80。

——(1979)ムラサキヒメカネコメツキ豊川市で採集。虫譜, 17(2): 31。

大平仁夫(1985)山崎隆弘氏採集の三河地方のコメツキムシ。三河の昆虫, 32: 170~178。

財賀寺におけるライト・トラップ採集

浅岡孝知

筆者は同会報にて、豊川市北部の昆虫として半翅目、カミキリムシ科について既に報告している。今年度、ライト・トラップによる採集を大平会長と実施したので、目録だけでなく、新知見についても併せて報告する。

調査日は昭和62年8月2日であり、筆者らは昨年と同地域にて実施しているが、まとめは今年度だけにとどめた。以下は目録である。

尚、種名のあとの○の中の数字は頭数を表す。

目 録

1. オサムシ科 Carabidae
ミカワオサムシ① *Carabus arrowianus* (Breuning)
2. ハネカクシ科 Staphylinidae
コマルズハネカクシ① *Donene cureipennis* Sharp
3. クワガタムシ科 Lucanidae
ミヤマクワダカ① *Lucanus maculifemoratus* Motschulsky
4. コガネムシ科 Scarabaeidae
ビロウドコガネ① *Maladera japonica* Motschulsky
マルガタビロウドコガネ① *Maladera secreta* Brenske
スジコガネ① *Anomala testaceipes* Motschulsky
ヒメコガネ① *Anomala rufocuprea* Motschulsky
5. コメツキムシ科 Elateridae
この項は大平氏に託す。
6. テントウムシ科 Coccinellidae
アカイロテントウ① *Rodolia concolor* Lewis
7. カミキリムシ科 Cerambycidae
ムナクボカミキリ① *Cephalallus unicolor* Gahan
ノコギリカミキリ② *Prionus insularis* Motschulsky
8. ハムシ科 Chrysomelidae
ツブノミハムシ① *Aphthona perminuta* Baly
9. ゾウムシ科 Curculionidae
オオミスジマルゾウムシ① *Phaeopholus major* Roelofs
10. キクイムシ科 Scolytidae
ルイスザイノキクイムシ① *Xyleborus lewisi* Blandford
11. ツチハンミョウ科 Meloidae
キイロゲンセイ① *Zonitis japonica* Pic
12. ゴミムシ科 Harpalidae
オオミツアナアトキリゴミムシ① *Parena perforata* Bates
13. ヒシバッター科 Tetrigidae
ヒシバッター② *Acrydium japonicum* Bolivar
14. カメムシ科 Pentatomidae
クサギカメムシ② *Halyomorpha mista* Uhler
ウメカメムシ① *Alcimocoris japonensis* Scott

- チャバネアオカメムシ① *Plautia crossata-stali* Scott
15. ツノカメムシ科 Acanthosomidae
セアカツノカメムシ① *Acanthosoma denticauda* Jakovlev
エサキモンキツノカメムシ③ *Sastragala esakii* Hasegawa
16. オオホシカメムシ科 Largidae
ヒメホシカメムシ② *Physopelta cincticollis* Stal
17. セミ科 Cicakidae
アブラゼミ① *Graptopsaltria nigrofuscata* (Motschulsky)
ニイニイゼミ① *Platypleura kaempferi* (Fabricius)
ヒグラシ② *Tanna japonensis* Distant
ヒメハルゼミ① *Enterpnosia chibensis* Matsumura
18. アワフキムシ科 Aphrophoridae
マエキアワフキ① *Aphrophora costalis* Matsumura
19. コガシラアワフキ科 Cercopidae
コガシラアワフキ① *Euscartopsis assimilis* (Uhler)
20. ミミズク科 Ledridae
コミミズク① *Petaloccephala discolor* Uhler
21. ブチミャクヨコバイ科 Drabescidae
ブチミャクヨコバイ① *Drabescus nigrifemoratus* (Matsumura)
22. ヨコバイ科 Deltocephalidae
ツマグロヨコバイ① *Nephotettix cincticeps* (Uhler)
23. テングスケバ科 Dictyopharidae
ツマグロスケバ① *Orthopagus lunulifer* Uhler
24. アオバハゴロモ科 Flatidae
アオバハゴロモ① *Geisha distinctissima* Walker
25. バゴロモ科 Ricaniidae
ベッコウハゴロモ① *Ricania japonica* Melichar
アミガサハゴロモ③ *Pochazia albomaculata* (Uhler)
この地域では特に多い。
26. ミズムシ科 Corixidae
ハラグロコミズムシ① *Sigara nigroventralis* Matsumura
27. アブ科 Tabanidae
ウシアブ① *Tabanus trigonus* Coquillett
28. アブバエ科 Syrphidae
オオアブバエ① *Megaspis zonata* Fabricius
29. クロバエ科 Calliphoridae
ケブカクロバエ① *Aldrichina grahami* (Aldrich)

以上 29 科 39 種を記録した。しかしこの他に鱗翅類、特に蛾類がかなり得られたが、ここでは省いた。財賀寺・観音山で特筆すべき種は、全山で聞かれるヒメハルゼミとウシカメムシである。ヒメハルゼミについては既に記載したのでウシカメムシについて説明を加える。

ウシカメムシについては、最近各県レベルでその分布が明らかになってきて、広く分布することがわかった。しかし得られる数が少ないことから、その生態はよくわかっていなかった。今回、ケミカルランプに 1 頭が飛来した。今ま

でヤブツバキ、ミカン、グミ等や灌木上での確認は報じられていたが、夜間燈火にくることは知られていない。偶然かもしれないが初めての

ように思われる。

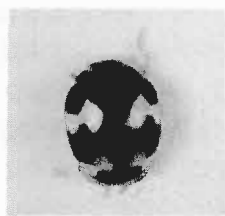
財賀寺のテントウムシ科

照井正康

1987年と過去に採集したものではあるが、ここに報告する。

尚、この報告にあたり、心よく資料提供を下された山崎隆弘氏に厚くお礼申し上げる。

1. バイゼヒメテントウ *Scymnus contemtus* (WEISE)
28-IV, 1980 (1) 山崎。4-X, 1987 (1) 山崎。
2. コクロヒメテントウ *Scymnus posticalis* SICARD
28-IV, 1980 (4) 山崎。5-X, 1987 (1) 照井。
3. アミダテントウ *Amida tricolor* (HAROLD)
17-IV, 1977 (1) 山崎。文献記録¹⁾。17-V, 1978 (1) 山崎。文献記録²⁾。27-IX, 1978 (9) 山崎。3-V, 1979 (2) 照井。23-IV, 1979 (1) 山崎。28-XI, 1987 (1) 照井。
4. ヨツボシテントウ *Phymatos ternus lewisii* (CROTCH)
27-IX, 1978 (1) 山崎。10-V, 1981 (1) 山崎。5-IX, 1987 (3) 照井。
5. ヒメアカホシテントウ *Chilocorus kuwanae* (SILVESTRI)
10-VI, 1978 (2) 山崎。3-V, 1979 (1) 照井。
6. ベニヘリテントウ *Rodolia limbata* (MOT-SCHULSKY)
27-IX, 1978 (1) 山崎。3-V, 1979 (1) 照井。
7. アカイロテントウ *Rodolia concolor* (LEWIS)
10-VI, 1978 (1) 山崎。
8. ヒメカメノコテントウ *Propylea japonica* (THUNBERG)
3-V, 1979 (2) 照井。
9. ムーアシロホシテントウ *Calvia muiri* (TIMBERLAKE)
10-V, 1981 (1) 山崎。
10. ナミテントウ *Harmonia axyoidis* (PAL-LAS)
28-XI, 1987 (2) 照井。
11. クリサキテントウ *Harmonia yedoensis* (TAKIZAWA)
3-V, 1979 (1) 照井。
12. キイロテントウ *Illeis koebelei* TIMBERLAKE
17-V, 1978 (1) 山崎。3-V, 1979 (1) 照井。22-VII, 1979 (2) 照井。



アミダテントウ

〔参考引用文献〕

- 1) 山崎隆弘(1977), 豊川市財賀寺での採集報告。三河の昆虫, 20:78
- 2) 山崎隆弘(1978), 三河地方で採集した珍しい甲虫(その3)。三河の昆虫, 21:81

安城市におけるコムラサキ黒化型の 出現率について

小 鹿 亨

愛知県三河地方から静岡県西部地方にかけては、コムラサキ *Apatura metis substituta* BUTLER の遺伝的な黒化型（クロコムラサキ）f. *mikuni* を、高い頻度で産することが知られている。しかしながら、県内の産地は丘陵地から山地であり、平野部では希なものである。岡崎市内の低地においても過産的に第2化が発生することがあるが、定着することはないらしい。

安城市村高町から桜井町、木戸町にかけての矢作川河川敷においては、マルバヤナギやコリヤナギなどのヤナギ類が帯状の林を形成しており、本種はこれらの食樹に発生しており、黒化型もかなり見られる。筆者は1987年5月から同年10月にかけて、当地で多数の黒化型、褐色型コムラサキを採集・観察しているのでその結果を報告する。

	採集観察頭数	コムラサキの二型の割合	
		黒化型	褐色型
村高町	71 頭	22 ♂♂ 4 ♀♀ (36.6%)	37 ♂♂ 8 ♀♀ (63.4%)
桜井町	42 頭	5 ♂♂ 4 ♀♀ (21.4%)	21 ♂♂ 12 ♀♀ (78.6%)
木戸町	28 頭	3 ♂♂ 2 ♀♀ (17.9%)	16 ♂♂ 7 ♀♀ (82.1%)
合計	141 頭	40 頭 (28.4%)	101 頭 (71.6%)

表 安城市産コムラサキの二型の割合

※ ()内は二型を合わせた観察頭数に対する割合

第1化から第3化までの個体を全て確認しており、このことは当地において本種が定着している可能性が高いことを示すものと考えられる。観察個体141頭のうち、黒化型：褐色型の割合は40：101で、黒化型の占める割合は3割弱であり、この割合は雌雄でほぼ同じであった。黒化型をメンデル式の劣性遺伝として、今回観察した値からハーディー・ワインベルグの法則によって遺伝子の比率を求めると、黒化型遺伝子：褐色型遺伝子はおよそ53%：47%になる。これは岡田(1970)による静岡県阿部川流域(黒化型が8割以上を占める地域)における結果の92%：8%と比較すると、当地の黒化型遺伝子の比率はかなり低い値であることがわかる。また、隣接する産地の岡崎市においても、黒化型

が褐色型に対して優占しており、本市産個体群の黒化型遺伝子の比率は、岡崎市産と比較してもかなり小さい値であると考えられる。

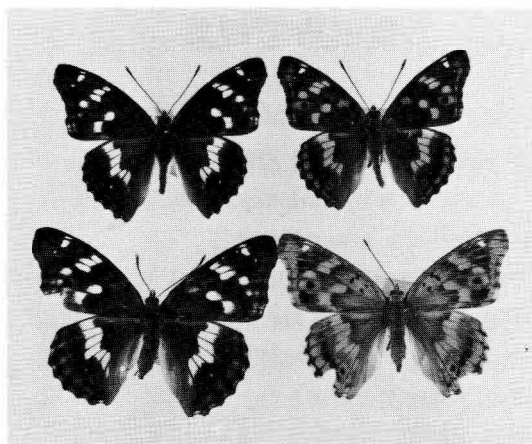
観察した頭数がやや少ないため、かなり偶然が作用していることも考えられるが、村高町から桜井町(直線距離で約1km)、木戸町(直線距離で約3km)南下するにしたがい、黒化型の割合が減少する傾向が見られた。このように北に黒化型が多く、南に少ないことは、黒化型の多い岡崎市内の個体群との関係を考える上で興味深い。

末筆ですが、岡崎市立葵中学校の杉坂美典先生には、県内のコムラサキの生態や、岡崎市内における黒化型の出現頻度について教えていた

できました。また、大平仁夫先生には、本文をまとめるにあたり有益なご助言をいただきました。この場を借りて、両先生に深く感謝いたします。

文 献

- 1) 杉坂美典 (1985) 岡崎市の蝶類 新編岡崎市史 自然 14 : 988~989, 1008.
- 2) 山内達也 (1987) 静岡県大井川中流域におけるコムラサキに関する知見, 蝶研フィールド Vol. 2 No. 6 : 24~27.
- 3) 福田晴夫ほか (1983) 原色日本蝶類生態図鑑II タテハチョウ科 : 255~259.
- 4) 豊田昆虫友の会 (1985) 豊田の昆虫II 猿投山のチョウ : 50.
- 5) 岡田伸一ほか (1970) 静岡県東部中部地方とその周辺におけるコムラサキの分布, 印高生物 (11) : 53~70. 静岡県静岡高校生物部.



安城市産コムラサキ、いずれも桜井町産
 左上：黒化型♂、左下：同♀、右上：褐色型♂、右下：同♀

短 報

三河地方で採集した甲虫

(2種)

照井正康

筆者は、三河地方では比較的めずらしい甲虫を採集したので、ここに報告する。

1. スギカミキリ *Semanotus japonicus* (LACORDAIRE)
 幸田町深溝 20-IV, 1980 (1).
 杉の木に静止していたのを得る。
2. アオマダラタマムシ *Nipponobuprestis amabilis* (SNELLEN VANVOLLENHOVEN)
 御堂山 15-VI, 1980 (1).

飛来してきたものを得る。最近の報告では浅岡孝知氏が1986年に船着山より採集している。

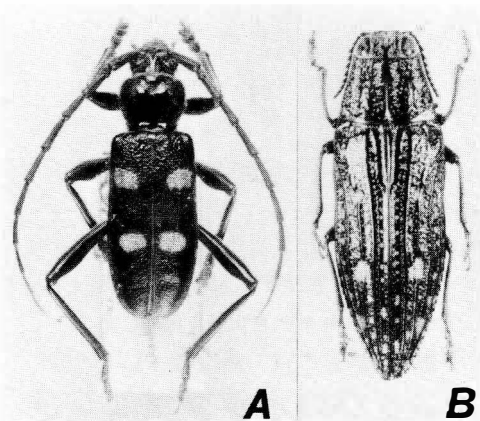


図1 A. スギカミキリ B. アオマダラタマムシ

〔参考引用文献〕

浅岡孝知 (1986), 船着山の甲虫類(タマムシ科), 三河の昆虫, 33 : 207.

トウキョウトラカミキリを

豊田市で採集

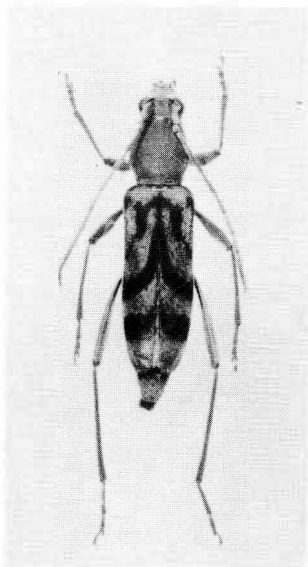
河 路 掛 吾

筆者は愛知県において記録の少ないトウキョウトラカミキリ *Chlonophorus yedoensis* (Kano)を採集したので報告する。

1987年1月17日に豊田市元山中でクヌギの枯れ枝(直径約10 cm)の材心付近でカミキリ類の幼虫を認め、食樹共に持ち帰り管理したところ次のように羽化脱出した。

1Ex. 22-III-1987.

(〒486 春日井市勝川町2-1576)



トウキョウトラカミキリ

マスダクロホシタマムシが

ツガより羽脱

河 路 掛 吾

筆者はマスダクロホシタマムシ *Ovalisia vivata* (Lewis)をツガより羽脱させた。本種はス

ギ、ヒノキで見つかるがツガの少ない愛知県において珍しい事と思うので報告する。

1986年3月9日に愛知県豊田市猿投山においてツガの枯れ枝(直径約40 mm)樹皮下でタマムシ科幼虫を見つけ材と共に持ち帰り飼育した。結果1986年5月28日にマスダクロホシタマムシが1頭羽化脱出した。

ヒメタイコウチの採集例

河 路 掛 吾

筆者はこの地方では珍しいと思われるヒメタイコウチ *Nepa hoffmanni* Esakiを採集しているので報告する。

1. 17-1-1987, 12Exs. 豊田市元山中。

水路(水深約1 cm)の石の下, 草の下で採集したがタイコウチも数頭見られた。

2. 17-1-1987, 8Exs. 東加茂郡足助町井の口。

水路(水深約50 cm)に草が大量にあったので、道路面上にあげて調べるとカエル, イモリ, タイコウチ, ミズカマキリと共に見られた。

安城市でミヤマチャバネセ

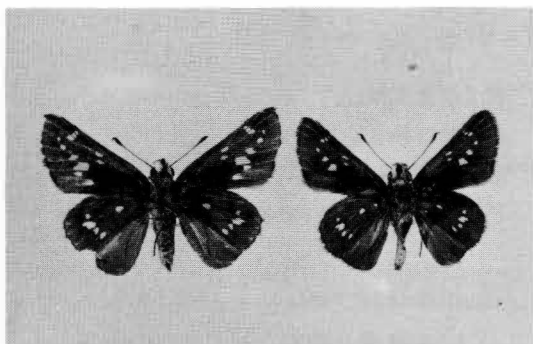
セリを採集

小 鹿 享

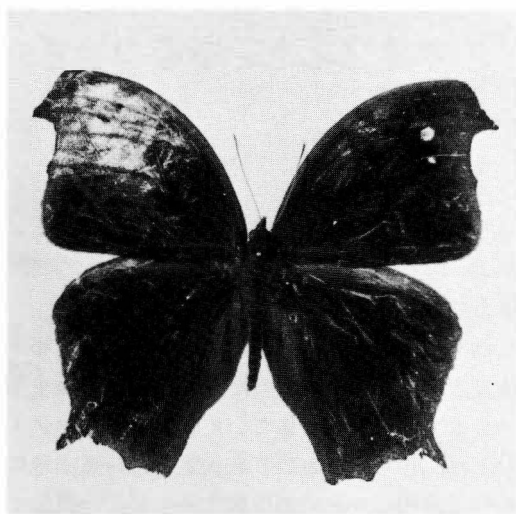
ミヤマチャバネセセリ *Pelopidas jansonis* BUTLERの県内低地での採集記録は少ないようである。筆者は安城市村高町の矢作川堤防において、本種を採集しているので報告する。クサギの花で吸蜜していた1♀と、その根元の草の上にとまっていた1♂を採集した。この日は堤防の周辺にイチモンジやチャバネなどの褐色セセリ類が多数飛んでいたが、他には本種を確

認できなかった。

25-VIII-1987 1♂, 1♀ 安城市村高町矢作川堤防。



ミヤマチャバネセセリ 左：♀裏面、右：♂裏面



クロコノマチョウ

作手村でクロコノマチョウ

を採集

小 鹿 享

筆者は愛知県南設楽郡作手村にある安城市作手高原野外センター敷地内で、クロコノマチョウ *Melanitis phedima oitensis* MATSUMURA を採集しているので報告する。

クヌギでタテハ類やマメキシタバなどに混じり樹液を吸っていた秋型の1♂を採集した。

3-X-1987, 1♂ 南設楽郡作手村白鳥安城市作手高原野外センター。

末筆ですが、発表を勧めてくださった岡崎市立葵中学校の杉坂美典先生に感謝します。

豊川市の蝶

(ミドリシジミ類について)

浅 岡 孝 知

豊川市の蝶については、特にまとめられたことはないようであり、文献を見ても欠落が目立つ。そこで筆者は少々古い記録であるが、下記の種について確認しているので報告する。

1. アカシジミ *Japomica lutea* Hewitson
豊川市財賀町観音山 6-VI-1982, 1♂.

平地～低山地にかけて分布するようであるが本地域では記録がないようである。

2. ミドリシジミ *Neozephyrus taxila japonicus* Murray

豊川市平尾町地内 7-VI-1983, 1♂.

本地域の周辺では、本宮山、額田町地内での記録があるが、本地域では確認されなかった。幸い2頭確認の内1頭を採集した。

オオツノトンボについて

浅 岡 孝 知

昨年、報道関係で話題となったオオツノトンボ *Protidricerus japonicus* Maclachlan の三河地方の分布について述べる。

低地～高地に至るまでかなり広範囲に分布することが確認されてきたが、その個体数は少ないようである。よく似ていて誤報されるツノトンボは、どちらかというとな家周辺～低山地にかけて分布し、その個体数も多いが、一見してその差異は明らかで、体長や色彩、翅脈等が異なる。以下にその分布状況を表す。

筆者記録地

- ・本宮山 24-VII-1987, lex 同一行動の宗川氏の報告もある。
- ・鳳来寺山 8-VIII-1987, lex。
- ・豊川市遠見山 18-VIII-1985, lex 最低地。

既知産地

- ・豊根村（三沢，黒川，坂宇場）。

以上のように、低地にも分布していることがわかる。このことにより、山地に生息するという説が崩れる。今後更に調査が進められて、明らかになっていくものと思われる。

〈参考文献〉

豊根村教育委員会（1980）愛知県豊根村の動物：159。

《三河昆虫研究会からのお知らせ》

- 昭和 63 年度の会費は 3,000 円です。3 月末日までに納入下さい。
振替番号は「名古屋 3-14465 三河昆虫研究会」です。
- 63 年度は三河本宮山を特集します。原稿を 11 月末日までにとどけて下さい。
- 報告も短報もできるだけ三河地方のものでお願いします。
- 本宮山は今までまとまった報告がないようです。多くの資料が集積されることを期待しています。